

第89回日本皮膚科学会 東京支部学術大会開催報告： “Keep Moving Forward” 胸躍る新たな冒険へ

京王プラザホテルとWeb配信のハイブリッド開催

須賀 康

順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科教授

はじめに

2025年11月15・16日、京王プラザホテルにて第89回日本皮膚科学会東京支部学術大会を開催いたしました。本大会は今回で89回目を迎えますが、順天堂大学が担当するのは、宮崎寛明教授が第30回東日本支部総会を主催して以来、実に59年ぶりの機会でした。長い年月を経て、再び大役を担えましたこと

をたいへん光栄に思うとともに、ご支援をいただきました皆様へ心より御礼申し上げます。

大会テーマ “Keep Moving Forward”

今回のテーマには、順天堂大学の建学の理念である「不断前進」の精神を重ねました。高い目標を掲げ、挑戦を続ける姿勢を象徴する言葉ですが、私自身は、むしろ皮膚科学の絶え間ない進歩や最新知見を常に取り入れ、取り残されないよう自戒の念も込めて、今回この言葉を使わせていただきました。また、本大会のイラストデザインには、順天堂大学も毎年参加するお正月の名物、箱根駅伝のイメージを採用し、第90回に向けて胸躍る新たなチャレンジを表現しました(写真1)。

プログラム構成

大会プログラムは、「不断前進」の理念を軸に、日常臨床から基礎研究まで幅広い内容が網羅されるよう、特別講演、教育講演、シンポジウム、ハンズオンセミナーをバランスよく配置しました。とくに当教室の強みである角化症、水疱症、レーザー・美容皮膚科、皮膚外科、皮膚悪性腫瘍、真菌症、痒み研究など、多くの領域で充実した内容となり、会場は終日活発な議論と前向きな質疑で熱気に満ちておりました。

海外特別講演では、私の専門分野である遺伝性角化症の世界的権威である、米国ノースウエスタン大



写真1 本大会ポスター

お正月の名物、箱根駅伝のイメージで作成しました。

学のAmy Paller教授(写真2)をお迎えして、原因遺伝子と表現型という二軸で疾患を定義する「ダイアディック命名法」を中心に最新の研究成果をご紹介いただきました。

また、国内の特別講演も多彩で、山田秀和先生(近畿大学アンチエイジングセンター)による抗加齢医学、山田裕道先生(順天堂大学医史学研究室)による医史学探訪、田中勝先生(杏林大学客員教授)によるダーモスコピー、大塚篤司先生(近畿大学教授)による生成AIについてのご講演、川島眞先生(東京女子医科大学名誉教授)の美容皮膚科・アンチエイジングへの直言など、未来を見据えた示唆に富むテーマで、参加者から好評を得ました。

さらに、レーザー、皮膚外科、病理、真菌、リーダーシップとウェルビーイングを扱うハンズオンセミナーを充実させた結果、若手医師の積極的な参加が印象的でした。

また、国際シンポジウムでは、かつて順天堂大学皮膚科で研鑽を積んだ海外出身の4名の先生方(写真3)にご登壇いただき、“日本語で聴ける国際セッション”という稀有な企画が実現しました。国際的な協働の意義や各国の医療事情について語っていただき、学術交流のみならず、人的ネットワークの温かさを感じられる時間となりました。

おわりに

最終的に本大会は2,040名を超える参加者を迎える盛会となり、テーマである“Keep Moving Forward”の精神がまさに体现された挑戦と進化の2日間となりました。順天堂大学浦安病院チームとしても、第90回大会へと伝統の襷を確実につなぐことができたと感じております。参加された先生方が、



写真2 酒樽での鏡開き

Amy Paller 教授(左から4人目)をはじめ、参加した外国人の先生方は日本の伝統文化を楽しんでいらっしゃいました。



写真3 国際シンポジウム終了後の集合写真

順天堂大学皮膚科でかつて研鑽を積んだ4名の先生方にご登壇いただきました。

それぞれのフィールドで新たな知識と活力を明日の診療に生かしてくだされば幸甚に存じます。

最後に、本大会の運営にご尽力いただいた学会スタッフの皆様へ深く感謝申し上げます。開催報告といたします。